
折紙&ローズ

MONSU

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

折紙&p;ローズ

【Nコード】

N2372W

【作者名】

MONSU

【あらすじ】

とある国の大都市・シュテルンビルト。街の平和を守るNEXT（特殊能力を持った人間）が存在する。彼らの活躍ぶりは専用の特別番組「HERO TV」で中継され、その年の「キングオブヒーロー」（最も活躍したヒーロー）の座を巡るランキング争いを続けていた。

序章（前書き）

この話は、いわゆる物語の裏側的なやつですな。ブルーローズの略仕方が分からないので、作中では、フルネームで書きます。

序章

とある国の大都市・シュテルンビルト。

街の平和を守るNEXT（特殊能力を持った人間）が存在する。

彼らの活躍ぶりは専用の特別番組「HERO TV」で中継され、その年の「キングオブヒーロー」（最も活躍したヒーロー）の座を巡るランキング争いを続けていた。

1位 バーナビー・ブルックスJr.

2位 ワイルドタイガー

3位 ブルーローズ

・・・最下位 折紙サイクロン

「また、僕、最下位ですか・・・」

「落ち込んでんじゃ無いわよ！もうちょっと頑張れば？ロックバイソンぐらいは、抜けるわよ？」

「それは、どういう意味だ！ブルーローズ！」

ロックバイソンが怒ったと思ったら、折紙とブルーローズのPDAに連絡が入り、

「折紙サイクロン、ブルーローズ、君たち二人には1ヶ月コンビを組んでもらう。折紙&ローズとして。」プチッ。切れた

「はぁ？折紙とコンビ？しかも何で、私の名前の方が後なのよ！」

「僕・・・どうしたら良いのかな・・・コンビなんて組んだこと無いし、見切れるのと変装しか出来ないし・・・」

「折紙なら、出来るさ！俺が保証する！な！バニー！」

「そうですね。折紙さんなら出来ますよ。」

「ちよっと！タイガー！？あんな折紙、折紙って、私にかけ言葉は無いの！？」

「良いんじゃないか？お前は強いし、折紙を守ってやってくれ。」
タイガーの言葉に少し照れたのか、ブルーローズは、顔を隠しながら
小声で言った。

「タイガーが言うなら・・・しようがないわね・・・」

「あっ！また照れてる！」

ドラゴンキッドがブルーローズをからかった。

「そんなんじゃないわ・・・」

次の日から、折紙とブルーローズのコンビがスタートする・・・

序章（後書き）

第一話は、ただの序章ですから、この後の話も読んでいただけたら嬉しいです。

初事件！？（前書き）

初事件です！さあー！犯人は一人のNEXTってわけで、いきなりピンチになってしまう！

果たして！どうなる！

初事件!?

「今回も始まりました！HERO-TV！今回の犯人は・・・おotto！犯人はNEXTのようです！能力は、精神操作のような感じですよ！さあー誰が最も早く犯人逮捕するのか！」

「私の氷はちよっぴりコールド、あなたの悪事を完全ホールド！」
「でござる」

「おotto、一番早かったのは、コンビを組んで初事件の、折紙&ローズだー！さあー初仕事ですが、どんな感じになるのでしょうか！」

「あんたね？シュテルンビルトの人達を変にしたのは！」

「そうだけど？それがどうしたのかしら？私達には何をやっても勝て・な・い♪わよ！」

そう犯人は言い放つと、能力を使った。

キューーン！ピカッ！

犯人が光ったと思ったら、辺りが一瞬、真っ白になった。

視界が戻ったが、ブルーローズがいなかった・・・

「ブルーローズどの！どこに行ったでござる！」

「わたしなんか・・・どうせ・・・いつも・・・照れてばっかで・・・

・どうせ何も言えないし・・・」

「どうしたんでござるか!？」

「私の能力よ。私の能力名は、ナガティブ。相手が1日間ネガティブに考えるようになるのよ。」

「なんと!ブルーローズは犯人の能力を受けてしまったー!さあー折紙サイクロン!どうする!」

壁の前でもじもじするブルーローズ、自分には何が出来るかわからない折紙・・・っと、その時近くにいた人達も、ネガティブになっていたことに、折紙は気づいた。

「なぜ!何故だ!その忍者ヒーローは、かからない!？」

「おーっと!どうしたんでしょうか?どうやら犯人の能力は、近にいる人間をネガティブにしてしまうようなんですが・・・折紙サイクロンには効いておりません!一体、どうなってるんでしょうか?」

「普段の拙者は・・・ネガティブ思考でござるから・・・」

「おーっと!?!こんな時にカミングアウトか!?!」

「そ・・・そんな・・・ことが・・・あつてたまるかー!」

少し泣きそうな犯人は、叫びながら、突進してきた。

「無駄でござる!そんな細い腕で・・・勝てるわけ無いでござる!」

ごもつともだった・・・突進してきた犯人に対して折紙は、かなり軽く背負い投げ?のようなものを浴びせ、そのまま逮捕♪

「おっと!折紙サイクロン一人で犯人逮捕だー!少し珍しい気がします」

「折紙・・・あんだ・・・頑張ったわね・・・あたしとは全然違うからね・・・」

ブルーローズは、やはり、ネガティブなままだ・・・

折紙は、そんなブルーローズを担いで会社に戻った・・・

初事件！？（後書き）

どうでしょうか？

二人での初仕事の様子は？

良かったですか？

また見てくれますか？

次回・・・祝い・・・？

祝い・・・？
(前書き)

短いですが、どうぞご覧ください！

祝い・・・？

事件後・・・皆はいつものトレーニングルームにいた。

「お手柄だったな！折紙！今日は、大活躍だったな！」

タイガーが折紙を褒めた。

「コンビ初仕事達成、おめでとう！そして、おめでとう！」

折紙の肩に手をおいて褒める、スカイハイ。

「今回は、お前に犯人を譲ってやったんだ！次は負けんぞ！」

犯人を譲ってやったんだ！・・・とか言ってるクセに、最後に負けん！っとか言ってるロックバイソン。（笑）

「もうちょつとで僕も現場に着いたのに！」

ドラゴンキッドは・・・いつも通りだ。

「お疲れさまでした。折紙さん」

バーナビーは、いつも通り、冷静であった。

「コンビ初仕事完了、おめでとう♪お礼にチュウして、ア・ゲ・る♪」

「嫌ですよ！」

「あら～♪そんなに嫌がらなくても良いじゃないの！？」

やっぱり変態チックなファイヤーエンブレム。

「私は、足手まとい・・・だったでしょ・・・？」

「そんなことは無いですよ。ブルーローズさんがいなかったら、相手の能力も分からなかったんです！ありがとうございます！」

「それは、違うわよ・・・私が勝手に相手の能力を受けただけ・・・そのせいで、あなたは一人で戦うことに・・・」

「それは、違いますよ！ブルーローズさんがいたから、勇気が出たんですよ！」

ネガティブなブルーローズに、慰めを行う！折紙であった・・・まだ、犯人の能力を受けたまま治らず、ネガティブなままのブルーローズであった。

そんなブルーローズを見て、皆は大笑いしていた。

祝い・・・？（後書き）

何か・・・文字少なすぎたかな・・・
まあ～いっか～

事件後の話だし♪

続きを悲しげに待っててください！（笑）

復活!!…そして…(前書き)

前回、犯人の能力によってネガティブになっていたブルーローズが
復活!! (笑)

復活!!!…そして…

次の日、ヒーロー達は集まっていた。

「大丈夫か？ブルーローズ」

「タイガーに言われたく無いわよ！」

「虎鉄さんは、あなたを心配して言ってるんです！」

「まああれだ！怒れるってことは、元気だって証拠だろ♪」話を慌てて終わらす虎鉄であった。

「今日も頑張りましょう！」

「あんたがネガティブになってるじゃない！」

「いつものことですよ…」

「二人はまるで夫婦喧嘩みたいだね♪」

折紙とブルーローズが喧嘩をしていると、ドラゴンキッドが二人をいじり始める。

「何言ってるのよ！…私はタイガーのことが…」

「ブルーローズ、俺がどうしたって？」

「何も…言ってないわよ！」「言ってないわよ！」…ですって

♪この子、しらを切るつもりかしら♪嘘でしょ♪あんたもたまには正直になりなさいよ♪」

ファイヤーエンブレムによる突っ込みが入ったが…

「ホントに何も言っていないわよ!？」

「僕はブルーローズさんの後ろにいましたけど、確かに何も言っていないです。」

「ってことは…?」

折紙の言葉に、虎鉄は確信をした。

「このどこかに俺達以外のNEXTがいる！」

虎鉄が叫んだ時、無人の扉が開いた。

扉の先にも、誰もいなかった。

「逃げたな」

「逃げましたね」

ロックバイソンが落ち着きながら言い、それに冷静に繰り返すバーナビー。

「んなこと言ってる暇は無い！行くぞ！」

虎鉄はそう言いながら走っていった……その途中で、虎鉄はバーナビーに話し掛けていた。

「今追い掛けているNEXTってさあ、ブルーローズのカッコしてたやつと一緒に能力なのか？」

「分かりませんが、そう考えて良いでしょ？」

その頃、二人の早さにおいてかれた残りのヒーロー達は、円陣？を組んでいた。

「行きます！」

「行きましょう！」

「行こう！」

「行くか！」

「行くわよ！♪」

「行こう！そして行こう！」

折紙サイクロン、ブルーローズ、ドラゴンキッド、ロックバイソン・ファイヤーエンブレム、スカイハイの順で気合いを入れる。

「何やってんのあんた達は！早く犯人追っかけなさい！」

「何の犯人なのよ？♪」

「実は、今タイガー達が追い掛けているNEXTは、最近流行ってる強盗事件の犯人の可能性が高いの！防犯カメラにも映ってないし、消えるしか方法が無いもの♪」

「なんだって！そんなことがあって良いのか！！」
キレルスカイハイ。

「見えないのに、どうやって戦うの？」

ブルーローズの言葉に、その通りだ！、と言わんばかりにみんな悩み始めた。

「そんなことより、先にヒーロースーツ着ない？」

ドラゴンキッドの鋭いツツコミが炸裂！

「」「」「あっ！」「」「」

忘れてた！！とは、言わなかったが…全員の顔がそんな感じだった…

復活!!…そして…(後書き)

「どうも!! 折紙達の話なのに、次回予告をしちゃう方、虎鉄です!! 何かスゴいことになってきてるけど、大丈夫なのか? 俺とバニーが犯人追っかけている時にあいっらしやべってるし…次回!! いっつ…らいく…あ…まるで夢のようだ。」

It's like a dream come true. まるで夢のようだ。

今回から次回予告を、アニメのやつに近い感じでやります。ちなみに上のやつは、虎鉄が言えなくて、挫折しているだけで…二回言ってるわけではないので

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2372w/>

折紙&ローズ

2011年11月13日23時28分発行